

【1 分解説】ムーンショット型研究開発制度とは？

総合調査部 政策調査グループ 次長 水澤 太一

「ムーンショット型研究開発制度」とは、未来社会を展望し、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を対象に、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）を策定し、その実現に向け、関係府省が一体となり推進する制度です。1960年代にアメリカで行われた月面着陸プロジェクト（アポロ計画）がその名称の由来となっています。

2018年に制度の基本的な考え方が整理・決定されて以降、具体的な目標が順次決定・追加され、研究開発が進められています。

例えば、以下資料の目標①「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」では、サイボーグやアバターで用いられている技術を活用して、人の身体・認知・知覚能力を最大限拡張することを目指しています。これにより、少子高齢化により労働力不足等が懸念される中、介護や育児をする必要がある人や高齢者など、様々な背景や価値観を持つ人が自らのライフスタイルに応じて多様な活動に参画できる社会の実現を目標としています。

全ての目標が「人々の幸福(Human Well-being)」の実現を目指し掲げられており、社会・環境・経済の3つ領域から10の目標が設定されています。

資料 ムーンショット目標一覧

No	目標
01	2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
02	2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
03	2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
04	2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
05	2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
06	2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現
07	2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現
08	2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現
09	2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現
10	2050年までに、フュージョンエネルギーの多面的な活用により、地球環境と調和し、資源制約から解放された活力ある社会を実現

(出所)内閣府 HP より第一生命経済研究所作成